

運転免許取得

徳島県労働者福祉協議会は27日～来年1月25日、徳島市昭和町3のわーくびあ徳島で、定住外国人向けの自動車運転免許証の取得支援講座を

県労働者福祉協

初めて開く。教習所に入る前に、法令用語など学科試験特有の日本語の読解力をつけてもらい、スムーズな取得につなげる。

外国人も諦めないで



外国人向けの運転免許取得支援講座の打ち合わせをする自動車学校の教官ら＝徳島市のわーくびあ徳島

日常生活に困らない程度」のメンバーと広沢年度の語学力がある定住外国人自動車学校(徳島市南田宮)が対象で、日本語教2)の教官が、日本語講習に取り組み「JTMと座を週2回、学科講座をくしま日本語ネットワー週1回開く。滞在期間が

27日から初の支援講座

「危険が潜む」方向を転じる 学科特有の日本語指導

限られている技能実習生や留学生は受講できない。
労働者福祉協議会によると、日常生活であまり使わない「危険が潜む」「方向を転じる」といった言葉や動詞の活用を理解できず、免許取得を諦める外国人が少なくな

い。
県内在住の外国人は5012人(15年末、法務省統計)いるが、県運転免許センターによると、免許取得者は1533人(8月26日時点)と3割程度にとどまっている。
協議会の兼松文字事務局次長は「免許を取って仕事や日常生活に役立ててほしい」と受講を呼び掛けている。

募集人員は12人で先着順。受講無料だがテキスト代が必要。問い合わせは協議会(電088(625)8387)。

(木村恭明)